

オーストリア *Republic of Austria*

Salzburger Festspiele

ザルツブルク音楽祭



祝祭大劇場 (Großes Festspielhaus)

出典: ウィキメディア・コモンズ

20世紀生まれの祝祭

ザルツブルク音楽祭 (Salzburger Festspiele) はオーストリアで毎年夏に開催され、コンサート、オペラ、演劇など様々なジャンルの公演が行われます。

その歴史を簡単に見てみましょう。かの大作曲家モーツァルトは、1756年にザルツブルクに生まれました。そのため19世紀末には、ザルツブルクでモーツァルトを記念する音楽祭を開催しようという議論が活発化します。しかし資金問題や第一次世界大戦に阻まれ、なかなか実現しませんでした。

状況が変わったのは第一次世界大戦後、演出家のラインハルトが、作家のホフマンスタール、そして作曲家で指揮者のリヒャルト・シュトラウスの協力を得て音楽祭の計画を進めていきます。

しかし意外なことに、1920年の第1回ザルツブルク音楽祭の演目は、モーツァルトのオペラでもオーケストラ作品でもなく、ザルツブルク大聖堂の野外舞台上で上演された『イエーダーマン』(台本ホフマンスタール、演出ラインハルト)という演劇のみでした。オーケストラの演奏会や室内楽、オペラ、リサイタルなどが加わるのはその翌年以降のことです。ちなみに『イエーダーマン』は現在でも、大聖堂広場で上演されるメインプログラムのひとつです。

1938年にオーストリアはナチス・ドイツに併合され、ナチスは音楽祭を、体制を宣伝するための道具として利用するようになります。43年には戦争の激化に伴い“Festspiele”という単語を削り「音楽と演劇のためのザルツブルクの夏」と改称、44年には音楽祭は中止されました。

1945年、音楽祭はアメリカ軍兵士の駐留のもとで再開されました。以来現在に至るまで、世界中からスター演奏家が結集し、モーツァルトの作品はもちろん、現代音楽や実験的作品、現代劇作家や作曲家による世界初演作品まで多様なジャンルを上演する場であり続けています。

100年を迎えて

2020年の音楽祭は、100周年記念として盛大に祝われるはずでしたが、新型コロナウイルスの影響で一時は開催が危ぶまれました。しかし、44日間200公演の予定を30日間110公演に縮小し、感染対策を行った上で開催されました。ザルツブルク大学大講堂では、広島で被爆した佐々木禎子の物語である音楽祭委嘱新作の音楽劇《千羽鶴》(シブランド・ファン・デア・ヴェルフ台本、演出)が初演されました。



モーツァルトのための劇場 (Haus für Mozart)

出典: ウィキメディア・コモンズ

最後に、Salzburger Festspieleは日本語では「ザルツブルク音楽祭」と呼ばれますが、もともと”Festspiele”という語は「音楽祭」よりも幅広く「祝祭」という意味を持ちます。「クラシック」音楽に限定されないザルツブルク音楽祭は、一堂に会した人々が音楽、ドラマ、言葉を通して上演作品を共有し楽しむという点で、まさに「祝祭」というにふさわしい多様性を持っていると言えるでしょう。

参考文献・画像出典

- スティーヴン・ギャラップ著，城戸朋子，小木曾俊夫訳『音楽祭の社会史—ザルツブルク・フェスティバル』（法政大学出版局，1993年）
- 中村伸子ほか「祝100周年！ザルツブルク音楽祭」（『音楽の友』音楽之友社，2020年10月）
- 山之内克子『物語 オーストリアの歴史』（中央公論新社，2019年）
- オーストリア政府観光局公式サイト <https://www.austria.info/jp/service-and-facts/about-austria/anniversary-year/salzburg-festival-100-years>
- 「ウィーン在住の中村伸子さんが現地からレポート！100周年記念ザルツブルク音楽祭が閉幕」ONTOMOメールマガジン，2020年9月20日 <https://ontomo-mag.com/article/report/report-salzbürger-festspiele2020/>
- Wikimedia: https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Großes_Festspielhaus.jpg
- Wikimedia: <https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Haus-for-mozart-2.jpg>

オ ス ス メ の 一 冊



物語 オーストリアの歴史

山之内 克子 著（中央公論新社，2019年）

【請求記号】0800:25:2546

本書の特徴は、オーストリア全体の通史ではなく、ザルツブルク、ウィーン、ティロルなど9つの州ごとにそれぞれの歴史が描かれている点です。本書のザルツブルクの章では、都市の歴史と音楽祭の起源の絡み合いを見ることができます。「音楽の都」ウィーンの章も必見です。

執 筆 者 紹 介

嶋岡敦子／言語社会研究科 修士1年

小岩信治先生の音楽学のゼミに所属。好きなピアニストはグレン・グールド（卒論の研究テーマ）、ルービンシュタイン、最近の演奏家だとアンデルシェフスキ、シャルル・リシャール＝アムラン。写真は原稿執筆中の2021年5月17日に撮影した虹。専攻や本記事とは全く無関係ですが、きれいだったので(笑)。

